

序

今年も新たに5名の1年生と、編入の2年生1名が加わり、2年生5名、3年生5名、4年生5名、総勢20名のゼミとなった。教育実習も、昨年に続き、なんとか全員の研究授業をみることができた。札幌の二人をはじめ、みんな遠方で厄介だったので、来年は楽をしたいものだ。本年度卒業予定の5人は、今年は教員志望が中学校希望の1名のみだった。来年も教員以外を希望しているということなので、本来の社ゼミの姿に戻ったというべきか。他、公務員が北海道警、民間は住宅メーカーとJA、さらには就職未定者と、いろいろな意味で多彩な進路である。

ゼミ運営も例年通り、前期は主に文献購読、後期にゼミ誌の作成といった内容である。前期は阿部彩の『子どもの貧困Ⅱ 解決策を考える』（岩波新書、2014）、後期は本田由紀の『教育の職業的意義 若者、学校、社会をつなぐ』（ちくま新書、2009）を読んだ。内容的には社会学概論に密接に結び付く内容であり、近年教員志望が増えていることを受けてのチョイスだったが、教育実習を終えた3年生の動向を聞くにつけ、このチョイスは微妙だったかと、心揺らいでいる。また、残念ながら、今年も後期は出張や会議が多く、学生のみのゼミになることが多かった。近年続いている傾向だが、1年生の発表ということを見ると、なんとかしたいところではある。

本年度のゼミ旅行は、10月4.5日に網走方面を訪れた。網走市を目的地として、初日は、大雪ダム、留辺蘂の山の水族館と網走の北方民族博物館に、2日目は網走監獄とモヨロ貝塚館に立ち寄った。なお、2日目は、教員と4年生で前川侑毅生誕の地である斜里を周遊した。ダムカードは、近場に在ったら今後も恒例にしたいと思う。食であるが、今年は、初日の昼に北見のラーメン店「ささき」に立ち寄ったが、後日、翌日御主人が急逝していたことを知り、驚くこととなった。後日別件で北見を訪れる機会があり、立ち寄ってみたが、休業の張り紙が妙に淋しく感じた。自分が最後の野菜ラーメンを食べたというのは、非常に感慨深い。夜の網走ビール館では、流氷ドラフトなどを飲むことができず、若干残念であった。とはいえ、そんなに旨いものでもないからそれほど悔いが残っているわけではないが...。2日目、斜里グループはごん太村に向かい、プチトマトを食べまくり、さらに窯焼きのピザを堪能した。二日酔いであることを忘れさせる美味であったし、なんととってもごん太社長がね。デジカメ持っていけばよかった...。網走と上川のあさひ食堂でラーメンを食したが、あさひのラーメンを味わう体力がもはやなかったね...

今年も、昨年からはじまったプチ企画を行っている。7月に高砂酒造の工場見学、12月にDVD鑑賞会（『ゲド戦記』）を実施した。鑑賞会は、講義の関係で1年生が不参加となった。まあ、そこそこ楽しいんだとは思いうんだけど、やりっ放し感がいかんように思う。何か改善をしなければと思う。また、今年は、植林も狙っていたが、学生チャレンジプロジェクトへの申請期間が終了していたため、断念している。来年度は実現させよう！